

奥能登塾が発足

移住者や若者連携

「ミナルビルで開かれ、約40人が能登に連綿と息づく知恵や伝統を次代に受け継ぐ思いを新たにしました。」

空港ビルで初講座
西山さん講師に

能登の各市町で個々に地域振興のため活動している人材をネットワーク化しようとしてきた。塾長を務める前田正彦(奥能登総合事務所)は能登の人口減少を挙げ「塾をつなぐの場として、豊かな自然や伝統文化を生かした活性化策を見いだしたい」とあいさつし、運営委員の星野正光さん(輪島市門前町)が設立経緯を説明した。

能登でまちおこしに取り組む有志や県の呼び掛けで、能登地区の移住者や若者が地域を学び、連携を図る「奥能登塾」が6日、発足した。初回講座(北國新聞社後援)が能登空港夕

講座では、日本宗教民俗学会委員で、真宗大谷派西勝寺住職の西山郷史さん(珠洲市)が「能登の魅力―能登立国1300年の風

土・歴史・民俗」と題し、歴史資料に見られる「能登はやさしや土までも」の言葉や能登の国の成り立ちを解説した。西山さんは「こ

の地に生きてきた人の知恵で能登じゅうが美しい庭のように保たれ、自然と皆が集まり、語らう場がある」と魅力を語った。

塾は能登の振興をテーマに2、3カ月に1回程度開いていく。受講無料で、奥能登総合事務所企画振興課が窓口となる。